



第2回定期演奏会



小田原男声合唱团

1983年7月2日(土) 6:30

小田原市民会館大ホール

“皆様 こんばんは！”

団長 日下部 陽

ようこそおいで下さいました。団員一同は心からの感謝をこめて皆様をお迎え致します。今夜のために重ねてきた贅肉とりにや語治療の成果を、皆様の心の目に快い響きとしてお届けできるよう祈っております。一同の胸の底には「音楽性の向上を目ざしながら、現代に生きていくことの証しをしよう」といつた潜在情熱があることは確信しておりますが、現実には思いのほか煩瑣で、世界不況や少年暴力などの社会現象は、直ちに団員の職業を忙しくさせ、男達だけの合唱活動を妨げ、音楽作りに水をさしてくるのです。——とは申しながら、今年はずでに春までに六名の若々しい新しい仲間が加わりました。実に心強いことでもあります。

私達は幸いにも、福永先生のすぐれた指導のもとに歩みを続けて満十二才を迎えましたが、更に今夜は、ご紹介にありますように、独唱者も伴奏者もすばらしい方々に来て戴くことができました。この喜びも密席の皆様方と共に分かち合いたいと存じます。

合唱の演奏もまた、決してステージにいる私達だけでするのではなく、演奏会作りはお客様の参加を得て初めて成り立つものと考えます。曲目の進行の間に生じる喜びも悲しみも、実は皆様とご一緒にする人生の歩みのひと駒であり、共有する心の営みの姿であることを思うと、それもまた私達にはたまらなくすばらしい感激なのです。さあ、いよいよ始まりのようです。——ありがとうございます。どうぞお楽しみを……。

忙中閑あり？ されば歌わん

先日開催された「湘南合唱祭」のプログラムに、出場した小田原男声合唱団の自己紹介文があり、『ひとところ60名はいいた団員も、世界的不況の煽りなどで今は35名』とありました。実際には75人を越えていたこともあり、今夜の演奏会も、35人よりは多くステージにいるはずなので、自己紹介というものは、日本的美風で、謙虚なものだと感じ入りましたが、練習に参加する人数が激減していることは事実なのです。

減ったことは事実ですが、そのかわり、毎回の練習の、人数と顔ぶれの変動がすくなくなくなったのはプラス面で、結果としては“小田原男声”の音楽が、それほど貧弱になつたということではありません。アンサンブルの密度では、むしろ向上したと言えるくらいです。最盛期は潤沢に過ぎたわけで、40人の男声合唱団は、音楽をやることにおいて、何の不足もない数のはずです。練習の如何によつて、どのようにも成果を果せるものです。

最近、新顔、それも若い人々の加入が目立っています。合唱団にとつて団員の新鮮代謝の速度が急であることは、決して望ましいことではありませんが、もともと30歳台が中心で発足した“小田原男声”が、創立10年をとうに過ぎて、新しい血の導入がなくては、これまた困ります。創立以来のメンバーの方々が“楽隠居”の身分になつて、歌だけうたつていたらよい、という日々が到来することを、それほど長く待っていていい、というのでもありません。新しい顔が何人も増えて、練習にも弾みが出ようというものです。

今回は、声姿も美しいアリマドンナ、林ひろみさんを迎えて、「大人の恋の物語」を、構成舞台でお目にかけます。どのような光景になりますことやら、開演を楽しみにお待ちしております。



■ 常任指揮者

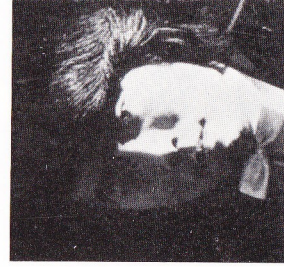
福永陽一郎

東京音楽学校（現東京芸術大学）本科ピアノ科出身。藤原歌劇団常任指揮者として第3回渡米公演を指揮。イタリアオペラ来日公演では副指揮者として参加、歌劇指揮者として広くその名を知られた。

合唱界での活躍もめざましく、早大グリーや法政アカデミーを率いて海外遠征も近年実施。また、藤沢市文化参与として地元アマチュア音楽家を結集してオペラ公演を実現。今年10月本邦初演の「ウイリアム・テル」に取りくむ。批評活動にも健筆をふるい、今年出版した「私のレコード棚から」（音楽の友）は、愛好家の中で読まれ、版を重ねている。

小田原創立以来12年。その的確な棒の下台唱に魅せられた人は100人を越える。

昭和47年国立音楽大学ピアノ科卒業。クロイツァー豊子に師事。伴奏ピアニストとして活躍し、小田原男声合唱団の第26回合唱コンクール全国大会（岡山）で銅賞受賞の栄誉を受けたのも、氏の伴奏の功績に負うところが大きい。その後も小田原男声合唱団とはしばしば共演、高い評価を得ているが、1981年6月2年間のウイーン留学を終え、帰国した直後の第10回定演におけるマーラーの「さすらつ若人のうた」の伴奏は特筆すべきものであった。最近では伴奏ピアニストの評価も定まり、レコード録音・諸団体の演奏会の伴奏に多忙を極めている。



■ ピアノ伴奏者

久 邇 之 宣

I 聖チェリアのミサ

(MESSE SOLENNELLE "SAINT CECILIA")

- No 1 Kyrie
- No 2 GLORIA
- No 3 CREDO
- No 4 Sanctus
- No 5 Benedictus
- No 6 Agnus Dei

作曲 福永陽一郎
編曲 福永陽一郎

II 海鳥の詩

- 1 オロン鳥
- 2 エトピリカ
- 3 海 鵜
- 4 北の海鳥

広瀬科 瀬源 平 蔵
作曲 作詩

III DIE LUSTIGE WITWE

(メリー・ウイドー)

- { I } BAIISIRENEN
- { II } VILIIJA LIED
- { III } ACH, DIE WEIBER!
- { IV } ROMANZE
- { V } FINALE

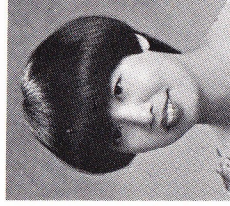
福永陽一郎 作曲
福永陽一郎 編曲

●ソプラノ 林ひろみ



東京芸術大学卒業、同専攻科修了。1968年より1971年までイタリアに留学。ミラノの「ヴェルディ音楽学院」にて学ぶ。在学中にメラーノ国際オペラコンクール、国際ロマンス音楽フェスティバル、エンナオペラコンクール等に上位入賞。
帰国後、オペラ「ボエーム」「カルメン」「ジジ」「オッペルヴィエ」「コシ・ファン・トゥッチ」「友人フリッツ」「竜宮姫」「ねじの回廊」「舞の主人」「唐人お吉」「バグダッド」「外灘」及びオペラの「第九」「ミサ」「レクイエム」「パッサカリア」「クリスタルパレス」「ハンデル・メソッド」「ヴェルディ・レクイエム」モツァルト「レクイエム」フオーレ「レクイエム」等のコンサートに出演。第七回フワイナターワルトオペラ賞受賞。二期生会員。東京音楽大学講師。

●オルガン 小林順子



桐朋学園大学ピアノ科卒業。井口愛子氏、山田雄子氏に師事。在学中に藤沢市民交響楽団とベートーヴェンピアノコンチルト第3番を協演する。現在、日本楽器東京支店の工レクティーンブレイヤーとして国内をはじめ東南アジア、ヨーロッパなどで演奏活動をしている。早稲田大学アリアーワクス、新宿混声合唱団などの伴奏を通じ、コーラスの伴奏にも意欲を燃やしている。

●伴奏者 ピアノ 青木 雅也
ヴァイオリン 白井英治 ベース 小林陽信

●荘厳ミサ曲「サン・セシール」

あの華麗なグラランド・オペラ「ファウスト」の作曲者であるシャルル・グノー（1818-1893）の本来の創作分野である宗教曲・合唱作品については、小田原男声がその第一回演奏会で、男声合唱のためのミサ曲としては最高傑作のひとつとしてあげられる「第二ミサ曲・ト長調「オルフエオニスト）」を部分的に演奏したときに、かなりくわしく述べた。その作風を要約すると、『官能と神秘という二元的な指向の融合』である。グノーの宗教音楽としての大作は、三部作「贖罪」、三部作「死者と生ける者」、ジャンヌ・ダルク・ミサ」などがあり、宗教的信仰と劇的抒情性がバロック的な形式の中に総合されていると考えられており、グノー自身もこれを「フレスコ画のスタイル」と呼んでいる。（「フレスコ画」というのは、しつこいが乾かないうちに描かれる宗教的壁画のことで、色彩の味が、濃密である。）

「サン・セシール」ミサ曲は、大作のうちでは比較初期に、つまりグノーが37才の夏に作曲された。サン・セシール（ローマ・カトリックでは当然、セント・チエチリアと呼ぶ）は、伝説によれば、2・3世紀のころローマにいた処女で、キリスト教の信仰の故に迫害され殉教死したといわれている聖人である。8世紀になって、ローマのカタコンバから彼女の自作の詩が発見され、音楽を非常に愛した少女であったことがわかり、今日まで長く、セント・チエチリアは音楽の守護神とされている。その祭日は11月22日で、この日はヨロツバ中で「聖チエチリアの日」が祝われる。この日のための音楽は、古くから数多くあり、ハンテルの「聖チエチリアのための讃歌」はとくに有名である。

パリでは、19世紀から、古い由緒のある聖エスタシウ教会でサン・セシールのためのミサをあげ、音楽家たちのための慈善行事とするのが通例となっており、すでに200年ちかぐ毎年、パリ音楽院のオーケストラが演奏をつとめることになっている。またこの日のために、当代一流の作曲家が新しくミサ曲を作曲することも伝統的に続けられている。（横道にそれるが、ローマの国立音楽学校がサンタ・チエチリアの名を冠していることはよく知られているとおりである。）

グノーの「サン・セシール・メッセ」は1855年11月22日に聖エスタシウ教会で初演された。グノーがこの音楽の守護神に対する敬けんな讃歌を作曲するに当って全力を費したことは容易に想像できる。このミサの初演をさいたサン・サーンヌは次のように言ったという。『この音楽の出現は、一種の茫然自失ともいうべき感嘆を惹き起した。その純粋な様式、崇高な威厳、音楽がはなつ光は朝日のようなであった。人々はその輝きに、最初は眩惑され、次いで魅惑され、そして最後に征服されてしまつた。』原曲は、ソプラノ、テノール、バスの独唱と混声

合唱、管弦楽およびオルガンのために書かれ、ミサ・ソレムニスの定型にしたがつて、キリエ、グロリア、クレド、サンクトゥス、ベネディクトゥス、アニュース・デイの6章からなり、クレドのあとに管弦楽によるオットフェルトリウムが挿入されている。更にグロリアとクレドは、テキストによってそれぞれ4部分にわけられている。

●男声合唱組曲「海鳥の詩」

男声合唱組曲「海鳥の詩」は、もともと混声合唱用の組曲がオリジナルである。1977年の芸術祭合唱部門参加作品として、NHK北海道本部の委嘱制作で作曲され、その年の優秀賞を獲得した。そのときは「オロン鳥」「エトピリカ」「海鷗」の3曲構成であったが、1979年の出版に当って、フィナーレの「北の海鳥」が加えられて4曲から成る組曲となった。更科源蔵の第三詩集「無明」の中から「オロン鳥」と「海鷗」の二篇が採られ、ほかの二篇は、この合唱組曲のために書き下ろされた。

男声合唱版は、作曲者・広瀬量平自身の編曲で、1981年、明治大学グリークラブと立命館大学メンネルコールの交歓演奏会・20周年記念のために製作された。もつとも混声合唱組曲の評判が高かったので、ブライヴエートな男声合唱用編曲は、これ以前にいくつかが為されていた。作曲自身の編曲――現在のタイトルは広瀬量平作曲・男声合唱組曲「海鳥の詩」――は正式に出版されている。

第一曲「オロン鳥」 オロン鳥というのはウミガサスの“呼び名”である。鳴き声がオロンときこえるのだろう。断崖の岩の上にとまり、黙々と海を見るオロン鳥。孤独な漂泊の思いと彼方へのあこがれが、さびしく悲しいトーンに乗ってうたわれる。

第二曲「エトピリカ」 エトピリカというのは、アイヌ語で嘴の先＝顔が美しいという意味だという。霧の中をまっしぐらに飛びエトピリカ。その狂熱的なひたむきな姿を、吹きささぶ風の中を、一心不乱に飛翔するエトピリカの姿を、はげしく、速いテンポであらわわわっている歌。

第三曲「海鷗」 じつとすぐくまる海鷗。あおく冷たくうねる寒流は、磯に砕けて、その流れは行方も知れない。鷗は、風の音や潮騒を、だまって聞いている。

Stereo keyboard



ビクターだからできた
ステレオ・キーボード。

- KB-50(外表/ブラック&ホワイト)……………¥118,000
- KB-30F(外表/シルバ&メタリック)……………¥128,000
- KB-30(外表/ブラック&ホワイト)……………¥99,800

井上楽器音楽教室

生徒募集

- ★リトミック科
- ★ピクトロン科
- ★ピアノ科

3・4・5歳児をおもちのお母さんへ

ピアノ・ピクトロンのための(幼児音楽教育科)

お子さんに音楽を身につけさせたいとお考えのお母さん！
リトミックとソルフェージュによる音楽教育

小田原おほりばた通り井上楽器0465(24)0515までお問合せ下さい。



日本ビクター株式会社

第四曲「北の海鳥」 前述のように、あとから付け加えられたフィナーレ。詩もやや散漫ならば、曲も、無理をしてつくり上げた という印象が残る。組曲のうち、この終曲だけが音楽としての結晶が弱いのは残念だが、演奏に当たってはすすわけにもゆくまい。

オロロン鳥 ウミズズメ科の鳥で、和名はウミガラス。鳴声がオロロン・オロロンと聞こえるところから、一般にオロロン鳥と呼んでおり、ペンギン鳥に似て立つたような姿勢で歩く。留鳥として住みついているものもいれば、冬は南の方に行くものもいる。

エトピリカ ウミズズメ科の鳥。色彩の美しい鳥で、全身は黒色、嘴と足は朱赤色、目の上から耳のように生えている長い冠毛は淡黄色である。飛び方は、速度は非常に早い、体の割に翼が短かく、玩具の鳥が飛んでいるように見えるという。

海 鷲 ウミウ科の鳥。荒海の岩礁や大洋に面する岩壁の上に棲む。長良川の鵜飼にはこのウミウが使われる。

ケイマフリ アイヌ語のケマ・フレのなまりで、脚が赤いという意味。エトピリカとともに、本州に棲息している、アイヌ語がそのまま和名になっている。

●メリー・ウイドー

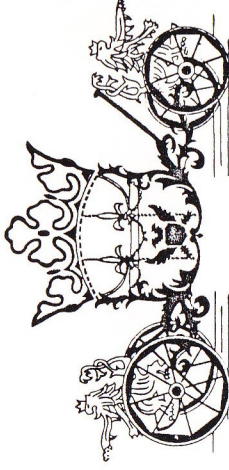
原題は DIE LUSTIGE WITWE。

フルツ玉、ヨハン・シュトラウスの次の世代に当るウイーンを代表する作曲家、フランツ・レハールの、最高の成功を護得したオペレッタ。昭和初年にアメリカで映画化されて「メリー・ウイドウ」というタイトルで公開されたため、日本ではこの英語の題名が定着した。

「メリー・ウイドウ・フルツ」というのが昔から有名である。これには二種類あって、「高鳴る調べに いか心の悩みも溶けて 言わねど知る恋心 想う一人は君ぞと」という堀内敏三訳詞で、歌手という歌手が「もうちんぷらシツクの歌手だがーみんなうたうた人気の高い歌曲♀であった。第三幕フィナーレの「愛の二重唱」の部分を独唱用にアレンジしたもの。言うまでもなく、このオペレッタのメイン・テーマとして、オペレッタ全体を知らない人でも「メリー・ウイドウ」という題名を知っている人なら誰でも思いあこす有名なメロディーである。

もうひとつは、このオペレッタの中の四分の三拍子の音楽を接続して、ヨハン・シュトラウスのフルツと同様の形式にまとめ上げた演奏会用あるいはウイーン風舞踏会用のオーケストラ曲で、日本では「メリー・ウイドウ・フルツ」というが、本当の題名は Ballsirenen — ドイツ語の辞書を引いても出て来ない単語である。作曲・初演当時のウイーンの流行語のひとつでもあったのが、要するに『踊り子たち』である。このオーケストラ曲を、たとえば「ウイーンの森の物語」や「南国のパラ」『芸術家の生涯』などのフルツ編曲するように、合唱用のアレンジしたものが出版されていて、その男声合唱用のものをウイーンの楽譜商・ドプリンガーの店先で見つけたのが、今夜演奏する組曲のアイデアの出発点であった。1979年の夏のヨーロッパ旅行の途中のことである。その楽譜を買った日の夜、アンテア・ウイーン劇場で上演中のこのオペレッタを観た。

本場の、ウイーン・フォルフス・オーバーの「メリー・ウイドウ」は、今年も、2回目の日本公演がおこなわれたし、テレビでも全曲放映されたので、物語も音楽も、広く知られるようになっていく。稀代のメロディー・メーカーだったレハールの数々の作品の中でも、とくに美しいメロディーに溢れているこの「メリー・ウイドウ」は、どこを取っても、聴く人の心を魅了せずにはいない名曲ばかりだが、中でも“黄金の頁”と言われる部分を、ストーリーの進行と関係なく組合せたのが今夜の組曲である。男声合唱とソプラノ独唱1人という組合せで、そのソプラノを、ハンナ・グラヴァリとヴァラシエンヌのふた役の歌をうたう。演奏は舞台上の“動き”をとものなうが、それも、ストーリーとは関係がない。オペレッタのイメーজの再現ではなく、「メリー・ウイドウ」の音楽の、美しさと素晴らしさを、最大限に発揮できるように計画された、純音楽的な組曲なのである。



◆音楽と仲よしになれる、新しいカタチ、新しい音。

メロディウ A-32

株式会社 **S** 鈴木楽器製作所
浜松市漁家町443 TEL(0534)-61-2325(代表) 丁430
鈴木楽器販売株式会社
横浜区緑区荏田町1856-8 横浜(045)911-1916

海鳥の詩

更科源蔵

1 オロロン鳥

オロロン
オロロンとなげば
岩も
もの言わぬ岩も
オロロンと答える

切岸の
岩棚の
歯の上に
生命あたたため
海を見る
ウミガラス
ウミガラス

ふるさとは
岩の上
雨ふれば
雨にぬれ
陽が照れば
陽にやかれ
風ふけば
骨かれる

水平の
落日に
胸は燃え
海昏れれば
胸しづみ

光をもとめ
南をしたい
たどりつく
ウミガラス
オロロンとなげば
海も
海も岩もオロロンと答える

2 エトピリカ

濃い霧にめしい
黒々と
波のどよめく
オホーツク
風走る岩棚の
草原に首を振り
海を見 風をきく
エトピリカ

水の臭いにしびれ
ぎこちなく
カタカタと翼ふるわせ
火を抱いて
ゴーズと鳴る
荒潮に生命さぐる
エトピリカ

岩崖の土穴の
幼い生命に
そうそうと
冠毛をなびかせ
目を見張り
霧にもめげずに飛ぶ限り
神はいる

3 海 鷗

首をのぼし
風をきき
首をちぢめ
潮をきく
着く寒く
うねりうねる
親潮の

キラキラと
くずれただよう
銀のいろこ

荒磯は
洗うだけ
底しれず
行方も知れぬ
黒潮の
油の濃霧は
鉛をのみ
ドロロンとなる

鷗は啼かない
首をのぼして
寒流をさぐり
首をちぢめて
暖流をきく

4 北の海鳥

ふるさとは
キラキラの
光散る

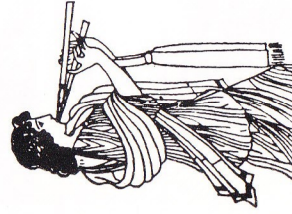
北の海
北の空
オロロン
エトピリカ
ケイマフリ
生と死は
ろんろんと
ゆれ動き
ゆれ返す
深き海底
ごうごうと
重く渦ず巻き

天にとどろく
オーロラの
たゆとう季節
空を行く
笛の音ににて
月の夜は
月にぬれ
胸いたみ
口ごもり
息をのむ

みずかきの
冷たくしびれ
落日の
燃えゆく彼方に
あかね色
花を夢みて
鉛色
波をけり
岩をけり
風を呼び
どうどうの
シタキに乗り
虹をくぐり

雪を抱く
雲となり
風にまかせ
天と地の
空と海との
人と神
一つにとける
キラキラの
光の彼方
南天の
星をめざすか
北の海鳥

(註) シタキ=雪や雨をともなう突風



うた
リコーダーで歌が唱える……!?

リコーダーの専門メ
ーカ―だからこそで
きたアウロスの傑作
をあなたに…。リコー
ーダーにだって歌が
うたえるのです。

AULOS
トヤマ楽器製造株式会社

本社 東京都板橋区大原町41丁目174 ☎03-960-8301(代)
大阪営業所 大阪市東区北久宝寺町2-50本町和光ビル802号
〒541 ☎06-264-7191(代)

MENBERS

T 1

大塚 正 夫
吉田 晃 修
福岡 達 元
古川 一 恵
佐野 純 夫
青野 幸 靖
福井 慎 治
藤本 慶 明
氏家 幸 三
鈴木 兀 稔
加藤 兀 豊
井筒 也 也
小野 哲 宏
齊藤 康 弘
伊東 昌 純
鈴木 木 純
佐々木 純

大磯小
東洋鍼灸
富士フイルム
富士フイルム
富士フイルム
国立公園管理事務所
富士フイルム
秦野西小
大磯小
日本インターナショナル整流器
松田小
相洋中
西浜高
食品安全センター
メガート印刷
ソニー
東海大生
湯本中
富士フイルム

B 1

足利 裕 之
柏木 秀 茂
下村 興 毅
松本 和 夫
小沢 一 夫
二宮 治 一
中島 広 志
奥津 光 隆
広田 守 邦
青木 雅 也
井上 弦 也
長内 幹 雄

小嵐中
中井中
下村商店
岡本中
昭和音大
国立箱根病院
熱海市・総務課
マイコトキシン検査協会
ピアノ教師
小田高生
小田高生

B 2

阿部 年 男
井上 忠 彦
坂口 宗 夫
渡辺 誠 之
下沢 孝 之
日下部 孝 陽
中山 博 之
江藤 凱 夫
石塚 康 夫
栗原 忠 直

なでしこ小
井上楽器
富士フイルム
千代中
富士フイルム
医師
関西ペイント
富士ゼロックス
食品安全センター
フクスケ

〈休団者〉

(T 1) 近藤国男・中島寛幸・坂口新治・鈴木正昭・斎藤恵司 (T 2) 福井 隆・石橋泰三
木村敏明・北畠道治 (B 1) 伊東清邦・加藤 宏 (B 2) 桑原敏雄

小田原男声合唱団スタッフ

常任指揮者 福永陽一郎 副指揮者 松本和夫 団 長 日下部 陽 副団長・技術部長 福井靖史
副団長・財政部長 渡辺誠之 副団長団員部長 中山博之 事務局長 井上忠彦 事業部長 日置達男
渉外部長 足利裕之 備品部長 加藤 兀 情報部長 鈴木幸三 監査 二宮浩二・中島広志



郷土料理

さつま

お茶漬・おむすび

九州出身の方ぜひ一度お越し下さい。

小田原駅前北本ビル
(電) 23-0288

年月日	演奏会名	場所	作曲者	曲目
83. 3. 6(日)	新日本フイルハーモニー交響楽団特別演奏会 「ハイドン 「ハルモニー・ミサ」	藤沢市民会館	橋本 国彦	ビートル樽
6. 5(日)	第32回湘南合唱祭	藤沢市民会館	林 雄一郎	風
6. 11(土)～ 12(日)	強化合宿	仙石原小学校	平井 康三郎	秋の日ぐれ
7. 2(土)	第12回定期演奏会	小田原市民会館	浜口 庫之助	涙君さよなら
10. 9(日)～ 10(月)	オペラ「ウイリアム・テル	藤沢市民会館	弾 厚 作	君といつまでも
10. 16(日)	第18回市民合唱祭	小田原市民会館	ヘン デ ル	メサイア(合同)
11. 26(土)	東京リーダータワーフェル ジョイントコンサート	小田原市民会館	ハ イ ド ン	ハルモニー・ミサ(合同)
84. 2. 26(日)	第7回JAMCA演奏会	名古屋厚生年金会館	グ ノ ー	チェチリアのミサ
			広 瀬 量 平	海鳥の詩
			レ ハ ー ル	メリー・ウイドー
			小山 作之助	夏は来ぬ

第12回定演スタツプ

実行委員長 日置達男 チケット・チラシ 小野 豊 プログラム 鈴木幸三・藤本慎治
 制服 加藤 兀・佐野 恵 合宿 中山博之・古沢元一 ステージ・マネージャー 坂口新治
 招待状 井筒 稔 会計 小野 豊 打合せ 下村興毅

がんばれ小田男!

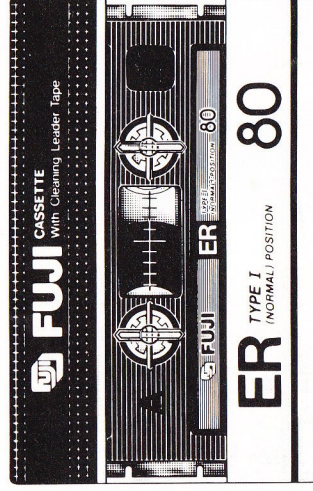
—— 協賛団体 ——

- ・東京リボン株式会社 ・第一製薬株式会社
- ・亀井農園(伊勢原市下谷) ・エーザイ株式会社
- ・日本レダグリー株式会社 ・三湘薬品株式会社
- ・モハン薬品工業株式会社 ・日本シェーリング株式会社
- ・同仁医薬株式会社 ・久光製薬K.K

小田原男声合唱団ジョイント
東京リーダータワーフェルコンサート

11月26日(土) 小田原市民会館

- 曲目 ● ニグロ・スピリチュアル(小田男)
- シベリウム「男声合唱曲」より(東京)
 - 広瀬量平「五つのラメント」(東京)
 - リスト「レクイエム」(合同)



new
ER
TYPE I (NORMAL) POSITION

- C-46 ¥ 450
- C-60 ¥ 550
- C-80 ¥ 750
- C-90 ¥ 850
- C-120 ¥ 1,200

音楽の心をテープにする

FUJI

CASSETTE